

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2019 年 12 月

「彼を知るために」「聖所（1）」「わたしの喜ぶところの断食」「ドセ・ジ・バナナ」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

聖所 (I)

4

聖書の教え

朝のマナ

彼を知るために

8

That I May Know Him

現代の真理

「わたしの喜ぶところの断食」

40

神の栄光ともう一つの声

力を得るための食事

「ドセ・ジ・バナナ」

46

レシピ

お話コーナー

「ヘロデの前で (II)」

48

イエスの物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

発行日 2019年10月27日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: iStock on Front page, Sermon View on page

40

Printed in Japan

「わたしがあなたがたを愛したように」

「まだ罪びとであったとき」キリストは、わたしたちのために死なれた。キリストはわたしたちが当然受けるべき待遇どおりにわたしたちを取り扱われない。わたしたちの罪はとがめられるのがあたりまえであるが、キリストはそうならぬ。長い間わたしたちの弱さ、無知、忘恩、わがままを忍耐された。道に迷い、心をかたくなにし、聖なるみ言葉をおろそかにしたにもかかわらず、なおそのみ手はさし伸べられている。

神はイエス・キリストを通じて罪深い、墮落した人類に手をさし伸べて招いておられる。神はすべての者を受け入れ歓迎される。最も罪深い者をおゆるしになることは神の榮えである。…

人類を神に連れもどすためにご自分の生命をお与えになったキリストにとって、人間はみな愛の関心の対象となる。…

救い主の模範は、誘惑され、過失に陥っている人に対して奉仕をするわたしたちの標準でなければならない。救い主がわたしたちに示されたのと同じ興味、優しさ、忍耐を他の人に表わさなければならない。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい」と、キリストは言われている(ヨハネ 13:34)。…

キリストとわたしたちを結びつける一番強いきずなであるべきもの、すなわち墮落して、苦しんでいる罪深い人や罪とがに死んだ人々をあわれむという点で、わたしたちはキリストと少しも一致していない。人間同志の不人情はわたしたちの最大の罪である。多くの人はキリストの優しい、偉大な愛を少しも表わさずに、神の正義を示していると思っている。…

キリストがお呼びになったのは無頼漢、取税人、罪人、世人に軽蔑されている人であって、キリストのやさしい同情がこうした人をご自分に引きつけたのである。キリストがお認めにならなかった階級とは、うぬぼれて他人を見下げていた人々であった。…

キリストのもとに来るように人に懇願し、力説する精神が聖書全体にどんなに表現されているかに注意なさい。わたしたちは個人的にも公にも、無限に価値のある機会をすべてとらえて説きすすめ、人を救い主に導かなければならない。キリストを見上げ、無我と犠牲のその生涯を受け入れるように全力を尽してすすめなければならない。(ミストリー・オブ・ヒーリング 135-139)

第14課 聖所 (I)

象徴と目的

「聖所」とは、その言葉が示すとおり、悔い改めた人にとっての避難所であり、また不安な人に安息を与える場所です。人間が墮落した後直ちに、神は、祭壇、火、動物の血を含む実物教訓を与えることによって、ご自分のところへ戻ってくる方法を示そうとされました。この制度によって、主は約束された贖い主を信じる信仰を通しての救いをお教えになりました。神はアベルの捧げものをお受け入れになりました。なぜなら、その捧げものは、ご自分が全世界のために捧げようとしておられた永遠の犠牲を象徴する、血を流すという条件を満たしていたからです。神は言われました、「血を流すことなしに罪の許しはありえない」(ヘブル 9:22)。アダム、エバ、およびその子らは、小羊が約束された救い主の型もしくは象徴であることを教えられました。キリストご自身が、悔い改めた罪人にとって聖所のような存在になられるのです。

この贖いの計画は、「世の初めから」考案されていました(黙示録 13:8)。

これらの犠牲から学ぶべき教訓は、シナイ山においてより明らかにされました。その時、さらに精巧な荒野の「聖所」の犠牲と儀式の制度がモーセに与えられました。この制度はより完全に、キリストのまつたき犠牲の目的とまた同様に天の聖所におけるキリストの将来の務めを例証したのでした(ヘブル 8:1,2; 9:24)。

その後、ダビデ王は神の幕屋のために恒久的な建物を建設したいと切望しました。しかし、彼の手によって多くの人の血が流されたことから、その任務は彼の息子へと渡されました。聖所は、ソロモンの宮においてしっかりと設立されました。

聖所の目的

この罪の結果は死です(ローマ 6:23)。しかし、罪人に対する死刑宣告は免除されうること、およびその死刑宣告は罪を犯すことをそそのかした者に戻すことができることを教えようといわれました。

聖所の目的は、救いがキリストの犠牲を中心としていること、また天の聖所におけるキリストの務めによることを教えるためでした。神によるこの唯一の備えには、告白と信仰が求められました。

聖所の教訓は、人類の救いのための神の完全にして欠けるところのない神の計画を教えました。犠牲の象徴は、イエスが犠牲と奉仕の完全な生活を送り、その後汚れない「神の小羊」として殺されたときに成就しました。これらの教訓の重要性は、地上の聖所において日々再現されました。これらの奉仕は、これらの型が天の聖所においてわたしたちの大祭司としてのイエスご自身によって継続されたときに現実となりました（ヘブル 8 章, 9 章）。

神により示された通りにこの聖所の基本的な事柄を見ていきましょう。

聖所

神はモーセに次のようにお命じになりました。「彼らにわたしのために聖所をつくらせなさい。わたしが彼らのうちに住むためである」（出エジプト記 25:8）。神によってモーセに示された型に従って聖所は建てられました（ヘブル 8:5）。

この型は、「人間によらず主によって設けられた真の幕屋なる聖所」（ヘブル 8:2）と同一でした。地上の聖所は、天の聖所に従ってかたどられたのです。

幕屋の周りには「庭」とよばれる場所があり、美しい亜麻布の囲いによって区切られていました（出エジプト記 27:9-18）。この庭は、動物たちがほふられる場所でしたが、イエスが死ぬべき場所である地上を象徴していました（ヨハネ 12:32,33）。会衆は、東側に一つの門があるこの庭の囲いの向こうに幕屋を見ることができました。このただ一つの「門」は、神との契約関係に入るための唯一の手段としてキリストを象徴していました（ヨハネ 10:1,9）。

燔祭の祭壇（出エジプト記 27:1-8）と洗盤（出エジプト記 30:17-21）は、庭の門と幕屋の門との間におかれていました。燔祭の祭壇は、キリストの血の犠牲を聖所に持ち込まれるべき唯一の受け入れられる捧げ物として受け入れることを象徴していました（ヘブル 10:19,20）。洗盤における洗いは、神の御前に入る前の罪の放棄と清めとして、水（バプテスマ）による清めを提供しています（ヨハネ 3:5）。

幕屋自体は囲われた中に位置し、そこに二つの部屋、すなわち聖所と至聖所がありました。

第一の部屋である聖所には、いくつかのものがおかれていました（ヘブル 9:1,2）。

金の燭台は（出エジプト記 25:31-40）、聖霊の働きと神の教会を通して表される命の光を象徴していました（ヨハネ 8:12;1:9; 黙示録 1:13,20）。

供えのパンの机は（出エジプト記 25:3-30）、命のパンとしてのイエスを象徴していました（ヨハネ 6:51, 33）。

香壇は（出エジプト記 30:1-7）、継続的なイエスのとりなしの香を表していました（黙示録 8:3, 4; ヘブル 7:25）。そのとりなしは、聖徒の祈りに混ぜ合わされました。

第二の部屋である至聖所で奉仕するのは大祭司だけでしたが、そこにもまた、特別なものがおかれていました（ヘブル 9:3-5）。そこには契約の箱がおかれており（出エジプト記 25:10-22）、その中に次の二つのものが入っていました。

神が自らの手で十誡を記された二枚の石板（申命記 10:4, 5）。

贖罪所（25:17-21）、すなわち神の憐れみとその正義が混じり合っていることを象徴するもの。

聖所の奉仕や務め：

日々の奉仕（レビ記第4章参照）。

日々の奉仕は、聖所の最初の部屋（聖所）で行なわれました。その日々の奉仕は、罪人の目を約束されたカルバリーにおける救い主に向けさせました（アダム時代の祭壇や犠牲と同様）。

一般の祭司が日々の奉仕を行ないました（ヘブル 9:6）。

罪人は、無垢で若く傷のない動物である罪祭を携えてくることが求められました（レビ記 4:3, 22, 28）。

罪人は、その動物の上に手をのせ、自分の罪を告白することにより、自分の罪を無垢な罪を負う動物に移すことを表しました。

罪人は、庭において自らの手でその動物を殺しました。

祭司はその血をとり、その時の状況に応じて以下のいずれかを行ないました。

いくぶんかの血を、庭の中にある燔祭の祭壇の角にふりかけ、残りの血を祭壇の下に注ぐ（レビ記 4:7）。あるいは、

血を第一の部屋にふりかける（レビ記 6:30）。あるいは、

祭司が、その捧げ物の一部分を食べた後、初めの部屋に入る（レビ記 10:17, 18）。

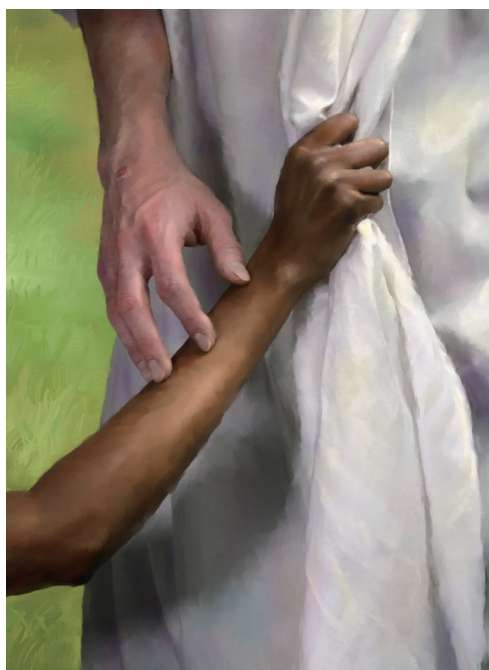
これらの行為はいずれも、罪が罪人から犠牲に、犠牲から祭司に、そしてその後、祭司が罪を聖所へ移すことを象徴していました。こうして罪人は自分のために犠牲にされた血によって許されたのです。「肉の命は血にあるからである。あなたがたの魂のために祭壇の上で、あがないをするため、わたしはこれをあなたがたに与えた。血は命であるがゆえにあがなうことができるからである」（レビ記 17:11）。

しかしながら、これらの奉仕から学ぶ教訓は、同じでした。「罪が支払う報酬は死」でしたが、神は、世の罪を取り除く小羊を備えて下さったのです。これは、燔祭のための小羊がいないことにイサクが気づいたときにアブラハムが語った預言的な言葉に類似していました。「…神みずから燔祭の小羊を備えてくださるであろう…」（創世記 22:8）。

奉仕の開始から、イスラエル人は、聖所の象徴が、神のみ約束の成就を指し示していることを知っていました。しかし、イスラエル人は、自らの身の安全と誇りによって、美しい儀式の意味を見失い、徐々にその儀式は形式的なものになってしまいました。宮の幕が上から下まで「真二つに裂けた」（マタイ 27:50,51）ときに、ユダヤ国家が「礼典律が廃止された」こと、またキリストの十字架の預言が現実になったとき象徴を成就したのだということを悟らなかったとは、なんと悲しいことでしょう。真の過越の小羊を拒絶したことにより、イスラエルは地上の聖所での奉仕は今や終わり、それがイエスによって完全な犠牲としてばかりでなく、天の宮における大祭司としても継続されることに気づきませんでした。「影」が本体に、「型」が実体に会ったのです。

彼を知るために

That I May Know Him



12月

カルバリーのお方を高める

「そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまことに満ちていた。ヨハネは彼についてあかしをし、叫んで言った、『わたしのあとに来るかたは、わたしよりもすぐれたかたである。わたしよりも先におられたからである』とわたしが言ったのは、この人のことである。』」(ヨハネ 1:14,15)

わたしはあなたにカルバリーの十字架を示す。わたしはあなたに、イエス・キリストを信じる信仰によって、あなたが滅びないで永遠の命を得るようにと捧げられた無限の犠牲を考えるように願う。……わたしはあなたにイエスを指し示す。あなたは、あなたの心の奥底で働いてくださる主にゆだねる時安全である。主イエスは、無限の値をもってあなたを買い取られた。あなたは、あなたの魂をイエスにゆだねて守っていただくことができる。あなたは、主をあなたの勧告者として寄り頼むことができる。……絶えず神に近づきなさい。主はあなたを助けられる。

すべての光の源であるお方からあなたの光を受けるようにしなさい。主は、天の宇宙の偉大なる中心的な光であり、また、世の偉大なる光である。主は、この世に生まれたすべての者に光を注がれる。安易な低い標準に留まってはならない。キリストの柔和を養いなさい。最高の到達点に達しなさい。そしてイエス・キリストから靈感を受けなさい。主はあなたの友である。あなたはいつも、主に寄り頼み、主が忠実であり、真実であることを知ることができる。あなたが、この上ない困難なことに傷つき、いためつけられて主の同情を必要とする時、主は、あなたのかたわらを通り過ぎることはない。あなたは子供のように単純に主のところに來ることができる。あなたは喜びと楽しみをもって主に來ることができる。あなたは希望どおりのもの、また、主にある働きに伴ったすべての成功をもって主を見上げ、すべての誉れを主の足元に置きなさい。すべてのことはあなたの心の謙遜な歩みにかかっている。イエスの名をあなたの旗に書き、あなたの軍旗の名譽を汚してはいけない。

キリスト・イエスのうちに、全天がわたしたちに与えられた。……主に心にある最上のものと最も聖なる奉仕を捧げることによってイエスをあがめなさい。主は、ご自分の命をあなたのために与えてくださった。これをなされた主とはだれであろうか。神のひとり子であり、世の初めから父と共におられた方がその方である。

あなたの旗を立て、もっと高く掲げなさい。決して旗を地のほこりの中に引きずってはならない。イエスを高めなさい。主をあがめ、カルバリーの人を高く、さらに高く掲げなさい。(手紙 147,1896 年)

12月2日

光を放つ時は今

「起きよ、光を放て。あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上にのぼったから。」
(イザヤ 60:1)

わたしたちは今こそ立って光を放つ必要がある。なぜならわたしたちの光が臨み、主の栄光がわたしたちの上にのぼったからである。わたしたちは自分のことを話す時間はなく、さわられると縮んでしまうようなオジギソウのような時でもない。イエス・キリストの中にわたしたちの力がある。わたしたちは信仰を語るだろうか。すべての魂のために用意されている栄光の望みと、イエス・キリストの、完全で豊かな義について語るだろうか。……

神の戒めを守る忠実な人々を、全天が関心を持って眺め、彼らのために神の愛が行使されている。わたしたちが寄り頼まなければならない方は神である。……神は世界をその手に持っておられる。神は、わたしたちの側におられる。全天は、わたしたちの協力を待ちこがれている。主は最高のお方である。それではなぜわたしたちは恐れることがあろうか。主は全能であられる。わたしたちはなぜおののくことがあろうか。過去に神はご自分の民を導き出された。もしわたしたちが神の力によって立ち上がり、前進するなら、主はわたしたちの助け手となられる。

聖書、そして聖書のみがわたしたちの砦であるべきである。神はみ言葉の中におられる。「彼は自分の魂の苦しみにより光を見て満足する」。この言葉は、わたしたちにとって十分である。「義なるわがしもべはその知識によって、多くの人を義とし、また彼らの不義を負う」(イザヤ 53:11)。もし、救われた魂のうちに神が果たされた使命の結果を、神の偉大で、愛にあふれたみ心が喜ばれるなら、わたしたちも喜ぼうではないか。わたしたちは今までになく働こう。自我はわきへおいて、信仰によってイエス・キリストをつかもう。主を万人のかしらであり、本常に麗しい方として世にあらわそうではないか。

「その後、わたしが見ていると、見よ、あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、数えきれないほどの大ぜいの群衆が、白い衣を身にまとい、しよろの枝を手に持って、御座と小羊との前に立ち、大声で叫んで言った、『救は、御座にいますわれらの神と小羊からきたる』」(黙示録 7:9,10)。(手紙 138, 1897 年)

暗黒の中にある世のための光

「見よ、暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう。しかし、あなたの上には主が朝日のごとくのぼられ、主の栄光があなたの上にあられる。もろもろの国は、あなたの光に來、もろもろの王は、のぼるあなたの輝きに來る。」(イザヤ 60:2, 3)

暗黒が地をおおい、濃い暗黒が人々を覆っている。そしてわたしたちは、真理と義の道にわたしたちを導かれる天の教師の出現をどれほど熱心に待ち望むべきであろう。神はすでにいろいろな時に、さまざまな場所で、違った方法で人間に語ってこられた。しかし世の無知は増大している。わたしたちは神の知識を人々に伝えるために真理に関してもっとはっきりとした言葉で語らなければならない。聖書はわたしたちの間でもっと特別な本にならなければならず、労を惜しまない努力により、注意深く勤勉な研究者は隠された宝を探しださねばならない。人間の格言や誤った教理は、神の言葉の解釈者であると公言する者が勧めても捨てなければならない。なぜなら、それらは真理を覆い隠そうとするからである。……

預言者が来るべきメシヤとして預言していた主イエスにユダヤ人は背いた。彼らは廃止された型の本体を見ることができなかった。神の律法を無効にし、真理を嫌って離れることにより、クリスチャン世界はキリストに背き、これまで天に起源をもつ真理を見つめることが習慣になっていなかったことを明らかにしたのである。暗黒は葬式の棺おおいようになり、全地を覆っている。今は信仰が弱ったり、病弱になったりするような時ではない。世が神の教会を転向させるようなことがあってはならない。光を持っている者は、今こそ起きて、光を放ちなさい。……

わたしたちの主であり、救い主であられるイエス・キリストの出現を待ち望んでいる者は、神よりも快楽を愛する者、またゲームや放縱なパーティーのうちに娯楽を求める者と交わることはできない。忠実な見張り人として、彼らは「朝がきます、夜もまたきます」と警告を発しなければならない(イザヤ 21:12)。(手紙 84, 1895 年)

12月4日

聖なる力のみ約束

「ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう。」(使徒行伝 1:8)

ペンテコステの日に、無限なるお方は教会にご自身の力をあらわされた。主は聖霊によって、弟子達の集まっていた部屋に力強い突風のように天の高みから下ってこられた。悔い改めの言葉と罪の告白が、罪の許しに対する賛美の歌に交じた。感謝と預言の言葉が聞かれた。全天は低く身を屈めて、比類のない知恵と理解を越えた愛を見つめ、あがめた。

使徒たちや弟子たちは驚きにわれを忘れて「ここに愛がある」と叫んだ。彼らは与えられた賜物をつかんだのである。彼らは、慈悲心で一杯になり、非常に深く、また及びもつかないほどに満たされて、そのために地の果てにまであかしをするために出て行かないではおれなかった。神は、わたしたちの主イエス・キリストの十字架の他には何も誇ってはならないと言われる。彼らは救われるべき人々が教会に加わるのを強く望む気持ちで満たされた。御霊の力に満たされて弟子たちが福音を宣べ伝えるために出ていったように、今日の神の民も出て行くべきである。わたしたちの周りはずべて、色づいて刈り入れを待っている畑である。これらの畑を刈り入れなければならない。誤謬と不信の暗黒の中で待っている者に恵みのメッセージを与えるという無私の願いに満たされて、わたしたちはこの働きにつくべきである。神は遠くかなたの地域にまでご自身の働きを進めて行くように信じる者の心を動かされ主なる神は、真理への服従によって清められる者すべてに、力と恵みを与えるという永遠の約束をしておられる。天と地においてすべての権威が与えられているイエス・キリストは、ご自分の器、すなわち「天から下ってき」た生けるパンを日毎に食する熱心な魂に同情をもって結びついておられる(ヨハネ 6:33)。天上の教会に結ばれた地上の教会はすべてのことを達成することができる。(原稿 62, 1902 年)

危機の時にキリストを表す

「神はその聖所で恐るべく、イスラエルの神はその民に力と勢いとを与えられる。神はほむべきかな。」(詩篇 68:35)

今わたしたちは上からの力をいただくべき時である。サタンとその悪の連合は、すべて善に反対するためにたゆまない働きをしている。キリストの教訓と教えを無効にし、聖書の靈感に関して不信の種をまくために結ばれた連合がこれほど強いことはかつてなかった。… サタンは人間が光に反対し、また神の言葉に反対して、悪の同盟と連合を組む気持ちを起させようとして下から、力強く働いている。不信心や法王制、また、準法王制が、公言するキリスト教と、密接で強力な関係をもつようになる。靈感に関する低い見解や人からは賢いといわれる考えを高めることは、人間のタラントを天の知恵と方法の上に置くようになり、いわゆる科学を生き生きとした信心の力にまさるものだと考えるようになるのである。これらは終末時代のしるしである。イエス・キリストを信じる者はだれでも、…… イエスを誉めたたえ、また神のみ言葉を称賛し、あがめ、たたえるあかしをすることに声という自分のタラントを用いなさい。み言葉を信じ、聞き、行なう者の一貫した聖なる清い生活の中で福音はその力を明らかにする。あなたがたは決してキリストに見るべき姿がなく、威厳もなく、また、あなたの慕うべき美しさもないかのような印象を世に与えてはならない。キリストが「ことごとく麗しく」また「万人にぬきんで」ておられる方として、ありのままの姿を表わしなさい(雅歌 5:16, 10)。なんと主の栄光は、主に従うと告白する者によって、曇らされていることであろう。彼らは世のことに心を奪われ、不従順で、感謝もせず、そして、清くないからである。主イエスが後ろに押しやられていることはなんとという恥ずべきことであろう。主の慈悲と寛容、また忍耐、比類のない愛はおおい隠され、そして主の誉れは、主に従うと公言する者の、強情さによって曇らされている。イエスを掲げなさい。イエスの愛を語り、主の力を人々に告げなさい。そして主のご品性という栄光と、カルバリーの十字架の偉大な力の背後に自己をなくしてしまいなさい。(手紙 110, 1893 年)

12月6日

魂の武具

「最後に言う。主にあつて、その偉大な力によって、強くなりなさい。」(エペソ 6:10)

この言葉は、いつでも各時代において地上の神の民にあてはまるものであった。しかし、この終末時代の休みなく続く、最も強力な巧みな闇の力の働きに直面しなければならない残りの教会にはどれほどよく当てはまることだろうか。使徒の言葉は、今日まで鳴り響いている。「悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、天上にいる悪の霊に対する戦いである」と(エペソ 6:11, 12)。神の靈感を受けたこれらの言葉は、わたしたちのためなのである。それらは、この世で光として輝き、曲がった強情な人々の間で神の戒めを守ろうと全力を尽くしている人々に特別な意味においてあてはまる。この時代は、偉大なる光を受けてきたわたしたちの青年にとって、なんと厳粛な、なんと恐ろしいほど厳粛な時代であろう。彼らの言葉と精神、そして品性が、彼らと交わる者たちを誤り導かせてはならない。……「神の武具を身につけなさい」(エペソ 6:13)。この言葉をあなたの指針としなさい。それを「身につけなさい」。聖書の中で、あなたに与えられているすべての武具は、あなたが身につけるために準備されたのである。「それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。すなわち、立つて真理の帯を腰にしめ、正義の胸当てを胸につけ」なさい(エペソ 6:13, 14)。小説やもつともらしい偽りの聖書解釈、また伝説などが、あらゆるところで、あなたが受け入れるようにと準備されている。しかし、帯が真理という金の鎖であるためには、すぐれた識別力が必要である。「正義の胸当てを胸につけ」—これはあなた自身のものではなく、キリストの義である。これが魂の武具である。わたしたちは、わたしたちの前に進むキリストの義によって、道徳的暗闇に立ち向かい、サタンの軍勢の策略を見抜くことができるのである。(手紙 60, 1893 年)

いよいよ明るさを増し

「正しい者の道は、夜明けの光のようだ、いよいよ輝きを増して真昼となる。」(箴言 4:18)

各時代の教会の大きな誤りは、聖書の真理の理解にある程度到達するとそこで停止してしまうということである。彼らはそこに錨を降ろしてしまった。彼らは、「わたしたちには十分な光がある。これ以上は必要ない」と言って前進することを止めてしまった。

主は、主の民を愛されるので、真理の旗の下に彼らを、一步一步第三天使の使命まで導いて来られた。…この終末時代にわたしたちは、過去の時代の知識と経験という恩恵にあずかっている。神の人や聖徒、また殉教者は彼らの信仰を告白してきた。そして、彼らの経験と神に対する燃えるような熱心さに対する知識は、生きた権威のある言葉となって世界に伝えられている。…この受け継がれた委託物は、忠実な証人によって神の知識に輝かしい光を照らし、終りの時代に生きている者たちにその真理を明らかにする為に集められたのである。そして彼らがこの光を感謝しているあいだはより大きな光へと進んで行くのである。……すべての光の源であられるお方は、その光線に来てそれを吸収するようにとわたしたちをまだ招いておられる。光は、キリストに従う者が、その恩恵を受けることのできないようなところには置かれていない。光が世から取り除かれて、もはや存在しないということはなく、与えられた光を増進させるすべての人々の上に、もっと明るく、さらに豊かに輝く光が増し加わるのである。この終末時代の神の民は、光よりも、暗黒を選ぶようなことがあってはならない。彼らは光を求め、光を望むべきである。…光はますます、明るく、さらに明るい光線で輝き続け、イエスにあるそのままの真理をますますはっきりとあらわす。人の心と品性は、それによって向上し、道徳的暗黒すなわちサタンが神の民の上にもたらそうとしているものは追い払われる。……わたしたちは、時の終末に近いので、もっと深い、もっとはっきりした識別力や神のみ言葉に対するもっと堅固な知識、また生きた経験と神の奉仕にささげられるべき心と生活の聖さが必要とされている。(原稿 37, 1890 年)

12月8日

主は再び来られる

「見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう。」(黙示録 22:12)

キリストは、この言葉を述べられた時、偽りの預言者であられただろうか。ヨハネが、この偉大な真理を聞いてから 1800 年以上が経過しており、そして主はまだ統治するためにおいでになっていない。しかし、わたしたちは、主の出現を待ち望むのをあきらめるべきであろうか。わたしたちは、「わたしの主は来るのが遅い」と言うのだろうか。(レヴィ・アード・ヘラルド 1898 年 7 月 31 日)「アダムから七代目にあたるエノクも彼らについて預言していった、『見よ、主は無数の聖徒達を率いて来られた』」(ユダ 14)。……キリスト再臨の教理は、神と常に交わって歩いたこのごく初期の人物の時代にすでに知らされていた。この預言者の神に似た品性は、天に移されるのを待ち望んでいる神の民が、到達しなければならない聖なる状態を表わしている。

わたしたちは、キリストの再臨に近いという教理に関して欺かれたと言えるのであろうか。わたしたちの主の再臨に人々を備えさせる働きがむだになったと言うべきであろうか。決してそんなことはない。……「わたしたちの信仰の告白を、動くことなくしっかりとらえていよう。…そして疑いや不信仰、また背教とを励むように互いに努め」るべきであろうか。否である。むしろ「愛と善行とを励むように互いに努め、…集会を止めることはしないで互いに励まし、かの日が近づいているのを見て、ますます、そうしようではないか」である(ヘブル 10:24, 25)。聖書の知識を持たねばならない。そうすればわたしたちは、預言の言葉をたどっていくことができ、……そしてその日が近いことを知って熱心と努力を増し加え、わたしたちは互いに忠実になるように励ましあうことができる。わたしたちの信仰を捨てるのか、わたしたちの確信を失うのか、忍耐しないのか、否、否、このようなことを考えてはいけない。……預言が詳細にわたるまでいかに成就され、そして、今も成就しつつあるかを考えなさい。わたしたちの頭を上げて喜ぼう。救いが近いからである。この救いはわたしたちが初めに信じた時より近づいている。わたしたちは勇氣と信仰に満たされて、忍耐して待つべきではなかろうか。最後の裁きの日に立つことができるように、人々を準備させないでおれようか。(レヴィ・アード・ヘラルド 1898 年 7 月 31 日)

主はなぜ遅くしておられるのか

「愛する者たちよ。この一事を忘れてはならない。主にあっては、一日は千年のようであり、千年は一日のようである。ある人々がおそいと思っているように、主は約束の実行をおそくしておられるのではない。ただ、ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、あなたがたに対してながく忍耐しておられるのである。」(ペテロ第二 3:8, 9)

1843 年および、1844 年以来働いてきたが、わたしたちの町々に警告するために必要であった伝道の働きをもっと充分に行う時間を与えて下さっていることをわたしは非常に感謝している。賢明なるわたしたちの天の父は、ご自分のひとり子を無限の犠牲とされた。この恵み深い賜物を通して、世がみ言葉、すなわち聖書の真理を受け入れ、主の再臨という偉大な出来事に備えることができるように神はわたしたちの世界にみ子をお与えになった。主の再臨を待つて大失望した時、信じる教会を非常に悲しませる原因となったことが、遅延を感謝する理由となっている。神のみ使たちは、今、真理がすべての国民に達するように道を備えているのである。町々に、小道に、また大通りに、警告の使命を聞くべき何千もの人々がいる。わたしたちは、目を覚ましているだろうか。警告を受けるべき世界のあることをわたしたちは理解しているだろうか。町々はどこも、勤勉に働きがなされるべきである。わたしたちは立ち上がって、偉大な働きをしなければならない。滅びつつある世界に対する最後の警告の使命を聞くべき多くの人々がいる。わたしたちは、時を遅らせてはならない。なぜならサタンは、魂を滅ぼそうと彼の全力をつくしているからである。わたしは、今、神のあわれみ深く怒ることのおそい忍耐のゆえに神を賛美する。メッセージが多くの国々に伝えられた。それは、世界的なメッセージである。わたしたちの町々に警告を与える熱心な働きがなされるべきである。わたしたちは、数多くの人々に光を送る機会を得てきた。彼らは真理を喜び、アメリカのあらゆるところで、衛生病院や、教会を建てるために時間と財産をささげた。学校が設立され、新しい地が開け、多くの人々が新しい国々に行った。ある場合、働きはゆつくりと進む。多くのところで、警告の最後のメッセージが伝えられていないのは聖霊が欠乏しているからである。……天使は、改心した男女が、この働きのために心と精神と魂を捧げる時、この働きをするために彼らをふさわしい者にしようと待っている。わたしたちには、むだにすぎず時間はない。(原稿 62,1896 年)

12月10日

品性があらわされる時

「彼らが買いに出ているうちに、花婿が着いた。そこで、用意のできていた女たちは、花婿と一緒に婚宴のへやにはいり、そして戸がしめられた。」(マタイ 25:10)

だれも、愚かな乙女の例にならってはならない。また、最後の時に立つことのできる品性を準備せずに、その危機が来るまで、待っていても大丈夫だと考えてはならない。客の名前が呼ばれ、そして調査される時になってから、キリストの義を求めても遅すぎる。キリストの義、すなわち小羊の婚宴の席に入るのにふさわしい礼服を着るべき時は、今である。たとえ話では、愚かなおとめは油を求めたが、彼らが求めたときにはそれを受けることができなかつた者として表わされている。これは、危機の時に立つことのできる品性を発達させることによって準備をしてこなかつた人々を象徴している。それはあたかも隣人のところに行って、あなたの品性をわたしに下さい、さもなければわたしは滅びますというようなものである。賢いおとめたちは消えかかった愚かなおとめのランプに油を分け与えることはできなかった。品性を譲ることはできない。売ったり買ったりできるものではない。品性は身につけるべきものである。主は、すべての人々にそれぞれ正しい品性を得る機会を与えておられる。……しかし、主は一人の人間が、自分で成長させた品性を他人に分け与えることができるような方法を用意してはおられない。わたしたちの品性のあらゆる面が特別の誘惑によってあらわにされるその日は、近づいており、わたしたちの近くまで迫ってきている。原則に忠実で最後まで信仰を働かせる者は、彼らの恵みの時の終わる前に試みと試練のもとで、忠実であることをあらわし、キリストに似た品性を形成する者となる者たちである。主の知恵と恵みによって主の聖なる品性にあずかる者は、キリストをもっと密接に知るようになった者たちである。しかし、だれも他人に献身した心や高貴な精神を与え、他人の欠点を道徳的力で埋めたりすることはできない。(ユース・インストラクター 1896 年 1 月 16 日)「花婿を迎えに出なさい」と呼ばれたとき、愚かなおとめたちのように、自分のランプの器に油がないことに気がつくことのないように、誰も準備の日を延期してはならない。(同上 1896 年 1 月 30 日)

目を覚まさない!

「だから、目をさましていなさい。いつ、家の主人が帰って来るのか、夕方か、夜中か、にわたりの鳴くころか、明け方か、わからないからである。あるいは急に帰ってきて、あなたがたの眠っているところを見つけるかも知れない。目をさましていなさい。わたしがあなたがたに言うこの言葉は、すべての人々に言うのである。」
(マルコ 13:33 - 37)

今は、わたしたちが霊的な目を一瞬の間もキリスト・イエスから離すことのできない時である。主は「よくよくあなたに言うておく、目を覚ましていなさい」とわたしたちに警告される。クリスチャンであると公言する者で、警告を必要としない者、また心の目を覚まし続ける必要のない者が一人でもいるであろうか。心はあらゆる努力によって、絶えず目を覚ましていなければならない。……しのびよる敵に注意しなさい。自分でも気がつかないうちに現われる古い習慣や、生まれながらの性質に対して目を覚まして注意しなさい。この習慣や性質を強引に(後ろに)退け、見張って必要ならば何百回でも後ろに追いやりなさい。思いに注意し、計画に注意し、それらが利己的で自己中心的にならないようにしなさい。誘惑に陥らないように目を覚まして祈りなさい。キリストがご自身の血で買い取られた魂を見守りなさい。彼らに善をなす機会を見逃さないようにしなさい。マリヤのように、決してわたしたちから取り去られることのない良い方を選んで主から学ぶために イエスの足元に座る必要がある。わたしたちはマルタのように主の働きに満たされる必要がある。より高いクリスチャンの到達点は、心からの祈りのためにひざまずくことによってのみ到達でき…利己主義という根のひげ根が一本でも魂のうちにあれば、予期しないときに芽を出してきて多くの人がそれによって損なわれるであろう。(手紙 36, 1894 年) わたしたちは、敵地にいる。天から追い出された者が大きな力をもって下ってきた。考えられるすべての策略と巧みをもって彼は魂をとりこにしようとしている。絶えず注意していないならば、わたしたちはたやすく彼の数知れない欺瞞の餌食になってしまう。わたしたちは留守をする主に主の家財と主の利益を託された家令である。主はご自分の財産である者たちに奉仕をするためにこの世界に來られたのである。主は、管理をわたしたちに託して天に帰られた。そして主は、わたしたちが目を覚まして主の帰ってこられるのを待ち、準備するのを期待しておられる。主が突然帰られてわたしたちが眠っているのをご覧にならないように、わたしたちに委託されたことに忠実でいよう。(手紙 5, 1903 年)

12月12日

危機の日にしっかり立つこと

「万物の終りが近づいている。だから、心を確かにし、身を慎んで、努めて祈りなさい。」(ペテロ第一 4:7)

時のしるしは万物の終わりが近いことを、わたしたちに告げている。成就された預言は、歴史上の事実となっており、そしてわたしたちの立場をはっきりと示している。わたしたちは永遠の世界のすぐ手前に立っている。…わたしたちの主はご自分の民に不法が終りの時代にははびこること、真の信心を麻痺させる影響が及ぶことをあらかじめ警告された。わたしたちのまわりのあらゆるところでは悪が見られ、聞かれ、感じられる。それは、大気そのものにしみわたり、神の民であると告白する人々の信仰と愛に影響を及ぼすように思われる。しっかりとしたクリスチャンの高潔さを保つことが難しい。今日公然とまかり通っていることは、キリスト教はその存在そのものを迫害のなさに負っているという事実である。火のような試練のテストがくる時、信仰を告白している大部分の者は、彼らの宗教がうわべだけの形式主義であったということを示すであろう。わたしたちが生きている時代は、危険な時代である。不注意や気まぐれ、また快樂に対する愛や利己的満足がクリスチャンと自称する本当に多くの人々の生活の中に見られる。今はセブンスデー・アドベンチストが信仰を失い、冷たくなり、形式主義になる時であろうか。神は、それを許されない。わたしたちが原則を堅く守ることによって、神がもつとも栄光をお受けになるという時に裏切り者になってよいものであろうか。わたしたちが、向こう岸に栄光を見ようかという今になって、天の引きつける力から離れるのであろうか。わたしたちは、地上歴史の最も重要な時に住んでいる。神に対する忠誠を保つことによって、わたしたちは、キリストと、真理に対するもつとも高貴なあかしをすることができる。真のクリスチャンは、かつてない程しっかりと神のみ約束にすがりつく。彼の心は、自分が宝をたくわえてきた所、すなわち天にある。正しい原則が軽蔑され、捨てられる時、その時こそ、忠実さと忠誠さは彼らのこの上なくあつい熱心と深い愛を示すであろう。そしてまた彼らは真理に、それが人気のないものであってもこの上なく堅く立つであろう。……

主は来ようとしておられる。わたしたちは終始変わらず確固としていよう。わたしたちの働きを、信仰の告白と調和するものとしよう。(ビュ・アンド・ヘラルド 1881年11月29日)

天の市民の資格

「命の木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都に入るために、彼の戒めを守るものたちは、幸いである。」(黙示録 22:14 英語訳)

「人は自分のまいたものを、刈り取ることになる」(ガラテヤ 6:7)。わたしは今と永遠のために種をまきたい。わたしの心は義に飢えかわいている。わたしは自分の命をキリスト・イエスの内に隠したい。そうすれば、わたしのまいた種は正しい収穫をもたらすからである。わたしは自分自身に関して深く心を動かされる。なぜなら、毎日、わたしは自分の言葉と行動において、毒麦か麦のいずれかをまいているからである。わたしは現世かあるいは永遠のために種をまきたいと思っているのか。わたしは自分に割り当てられた時間の終り近くまで生きてきた。収穫はどんなものであろうか。わたしは、いと高き方に穏やかにして、揺るぐことなく信頼したい。わたしが義務の道に従っていた時、すばらしい方法で主が(愛情深く)守ってくださることを経験してきた。わたしは十分に熟したとうもろこしの束のように墓に下っていきたい。わたしは心のうちにどんなつぶやきも抱きたくはない。ただ感謝の気持ちがあればよい。神の恵みと慈しみは忘れないで、非常に貴重なものとして心にとどめられるべきである。主の権威の証人としてわたしたちは主の聖なるみ名を高め、賛美する。わたしたちは聖なる山で主と共にいる。時の一瞬一瞬が尊く、永遠の結果を伴っており貴重でまた重要である。わたしたちはソドムのリンゴのように嘲り、惑わす状況の世界にいる。主は、わたしたちの世界にある二心と二枚舌をどのようにご覧になるだろうか。もし、わたしたちが天を見上げて厚い雲のかなたに義の太陽の輝く光線を見ることができないならば、わたしたちはがっかりしてしまうかもしれない。しかし、イエスは生きておられる。……

キリストの学校の訓練は、教会をその愛する方の腕にすがらせる。主に贖われた者に、ついに、勝利を得て歌と永遠の喜びをたたえてシオンに来るであろう。天使の群は歌いながら、彼らのために喜ぶであろう。しかしわたしたちが市民である資格は何であろうか。「命の木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都に入るために、彼の戒めを守る者たちは、幸いである。」(原稿 74, 1896 年)

12月14日

各時代の危機

「悲しいかな、その日は大いなる日であって、それに比べるべき日はない。それはヤコブの悩みの時である。しかし彼はそれから救い出される。」(エレミヤ 30:7)

時のしるしの成就是、主の日が近いという証拠を示している。…危機が徐々にわたしたちに忍び寄ってきている。太陽は天に輝き、いつものように巡っている。諸々の天はまだ神の栄光をあらわしている。人はまだ食べ、飲み、植え、建て、めとり、嫁ぎなどしている。商人はまだ売り買いなどしている。……快樂を愛する者はなお、劇場に競馬場にとばく場に群がっている。最高の興奮がみなぎっているが、恵みの期間はすみやかに閉じようとしている。そしてすべてのことが永遠に決定されようとしている。サタンは自分の時の短いのを知っている。彼は自分の手下をすべて働きに動員しているので恵みの時が終り、あわれみの扉が永遠に閉ざされるまで人は欺かれ、惑わされ、捕えられ、我を忘れる可能性がある。

「かつてなかったほどの悩みの時」(ダニエル 12:1)は、間もなくわたしたちの上に臨もうとしている。そして、一つの経験、すなわち多くの者が怠けて得ようとしない経験が必要とされるのである。今、わたしたちの大祭司がわたしたちのために贖罪の働きをしておられる間に、わたしたちはキリストにあつて完全になるよう求めるべきである。わたしたちの救い主は一つの思いといえども、誘惑の力に屈することはなかった。サタンは自分が足場にするのできる何らかの点を人間の心の中に見つける。ある罪深い欲望が大事にされている。それによって彼の誘惑はその力を発揮する。しかし、キリストは「この世の君が来る…。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない」と自ら宣言された(ヨハネ 14:30)。サタンは、彼が勝利できるものを何も神の子の中に見つけることができなかった。主は天父の戒めを守られた。そして、サタンが利用できる罪が主にはなかった。これは悩みの時に立つ人々が到達しているはずの状態である。「われわれの神は来て、もだされない。…神はその民を裁くために、上なる天および地に呼ばれる、『いけにえをもってわたしと契約を結んだわが聖徒をわたしのものと集めよ』と」(詩篇 50:3-5)。(レビュー・アンド・ヘルド 1912年3月14日)

安全な隠れ家

「忍耐についてのわたしの言葉をあなたが守ったから、わたしも、地上に住む者たちをためすために、全世界に臨もうとしている試練の時に、あなたを防ぎ守ろう。」
(黙示録 3:10)

神は、諸国民を裁かれる。…今日、今まで以上に神に対する侮辱が表わされている。人間は、彼らの罪の杯がほとんど一杯になっていることを示す、無礼と不従順の限界点に達している。…神の御霊は、地球から引き上げられつつある。あわれみの天使が、その翼をたたんで立ち去る時、サタンは長く待ち望んでいた邪惡な行為を実行するのである。嵐と暴風雨また戦争と流血—これらのことをサタンは喜び、このようにすることによって彼は自分の計画を完成するのである。そして人間は完全に彼に欺かれるので、これらの災害は週の第一日を冒涇した結果であると宣言するようになる。一般の教会の講壇から、日曜日が尊ばれねばならないほどに尊ばれていないので、この世界は罰を受けているのだという声明が出されるであろう。……サタンは、真理を愛さないすべての者の心になう気持ちの良い作り話を持ち込む。怒りのこもった熱心さで彼は戒めを守る者を訴える。……サタンは世界を自分のものだと主張する。しかし、彼のたくらみに抵抗し、聖徒たちにひとたび伝えられた信仰のために熱心に戦う小さな群がある。サタンは戒めを守る人々を滅ぼそうと努める。しかし、神は彼らを守るやぐらである。神は敵に対抗して彼らのために旗を高く掲げられる。神は彼らにとって「風を避ける所」そして「疲れた地にある大きな岩の陰のよう」になられる（イザヤ 32:2）。主は彼らに言われる、「さあ、わが民よ、あなたのへやにはいり、あなたの後ろの戸を閉じて、憤りの過ぎ去るまで、しばらく隠れよ。見よ、主はそのおられる所を出て、地に住すむ者の不義を罰せられる。地はその上に流された血をあらわして、殺された者を、もはやおおうことがない」（イザヤ 26:20, 21）。「主に贖われた者は帰ってきて、その頭に、とこしえの喜びをいただき、歌うたいつつ、シオンに来る。彼らは楽しみと喜びとを得、悲しみと嘆きとは逃げ去る」（イザヤ 35:10）。（レ・ビュー・アンド・ヘラルド 1901年9月17日）

12月16日

長くはない

「さあ、わが民よ、あなたのへやにはいり、あなたのうしろの戸を閉じて、憤りの過ぎ去るまで、しばらく隠れよ。」(イザヤ 26:20)

嵐がひとまとめに、罪に眠っている世界を急に襲うときはそう遠くない。…地球が酔った人のようによめき、天が震え、主の大いなる日が来る時、だれが立ち得ようか。彼らは恐れおののいて御前から逃れようとむなしい努力をしながら、あるものを見る。「見よ、彼は、雲に乗って来られる。すべての人の目が…彼を仰ぎ見るであろう」(黙示録 1:7)。救われなかった者は、口のぎけないもの、すなわち自分たちの神に向って、激しい呪いの言葉を言う。「そして、山と岩とに向かつて言った、『さあ、われわれをおおって、御座にいます方のみ顔と小羊の怒りとから、かくまってくれ』」と(黙示録 6:16)

被造物は、その神に忠実であり、血迷った呼びかけに耳を貸すことはない。報いられなかった愛はいま憤りに変った。自分の罪をイエスに取り除いてもらおうとしなかった罪人は、隠れ場を求めてあちこちに走り、刈入れの時は過ぎ、夏はもはや終わった、しかし、われわれの魂はまだ救われないと叫ぶ。……

主の恵みをあざける者には小羊の憤りは非常に恐ろしいが、すべての主を受け入れた者には恵みと義と愛と祝福である。エジプト人にとっては、恐ろしい復讐的怒りをもった暗黒であった雲の柱は、神の民にとっては輝かしい火の柱であった。このことは、最後の時代の主の民にとっても同じなのである。主の十戒を守る者たちにとっての神の光と栄光は、信じない者たちにとっては暗黒である。彼らは生ける神の手に落ちることは恐ろしいことであると考え。ご自分に来る者を救う為に長く伸ばされた強いみ腕は、命をいただくために、主に来ない者すべてにとって主の判決を遂行するのに強いみ腕となる。恵みがまだ去りかねている間、招きの声はまだ聞かれる間、神は主に帰ることを許される。すべての魂を保護し、主の戒めを守る者を憤りの過ぎ去るまでかばうために確かな備えがなされている。(手紙 137, 1890 年)

わたしたちが持つことのできる 最上の設計書

「祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現を待ち望むようにと、教えている。」(テトス 2:13)

わたしたちは再臨信徒である。わたしたちの主である救い主イエス・キリストの出現を待っており、それについて考えることが好きである。わたしたちは自分が信じてきた方を知っており、かの日のためにわたしたちの魂を主に委ねることを恐れない。わたしたちは再臨信徒であることを公言するのをまったく恥ずかしいとは思わない。

わたしたちは、第四条の戒めである安息日を信じる。なぜならそう明確に記されているからである。そしてこれがわたしの宗教的な信仰の土台である。人間の会議による権威を受け入れない。むしろ、もっと以前の天の会議にまでさかのぼる。「主よ、あなたのみ言葉は天においてとこしえに堅く定まり」とある(詩篇 119:89)。わたしたちは「主はこう言われる」という言葉を取る。これがわたしたちの立場である。「主はこう言われる」という言葉を持たない教理は、全世界の人に受け入れられるかもしれないが、そのことがその教理を真理とするわけではない。…もしわたしたちが天国への道を知りたいと望むならば、人間の作った学説や、仮説ではなく、聖書を学ばなければならない。……わたしたちは、わたしたちの信仰、セブンスデー・アドベンチスト主義を決して恥じたりはしない。なぜならば、これこそわたしたちが持つことのできる最上の設計書だからである。わたしたちは、わたしたちの主なる救い主、イエス・キリストの再臨を待っている。人々が、わたしたちの信仰を嘲り、ひやかしても、このことが、わたしたちを憤慨させたり、驚かすようであってはならない。こういったすべての示威行動は真理を誤りにすることもないし、誤りを真理にすることもないのである。わたしたちは神のみ言葉という土台の上に堅く、動かされることなく自分の立場を置くのである。

.....

永遠の事実が心の目の前に据えられなければならない。世の魅力はそのあるがまま、すなわち全く益のないものと映るようになる。…わたしたちは、祝福された望みであるわたしたちの主なる救い主イエス・キリストの栄光の出現を待ち、望み、祈っている旅人であり、寄留者である。もしわたしたちがこのことを信じ、実際生活の中にあらわすなら、何という力強い活動がこの信仰と希望に吹き込まれ、互いに対する燃えるような愛が吹き込まれることだろう。……神の栄光のためにどれ程注意深い清い生活を送るようになり、……わたしたちと世の間に引かれる境界線をはっきりしたものにするだろう。(原稿 39, 1893 年)

12月18日

絶えず続く準備

「だから、あなたがたも用意をしないさい。思いがけない時に人の子が来るからである。」(マタイ 24:44)

わたしたちは、将来を見ることができないので、しばしば、そのことが不安と不幸との原因になる。しかし、わたしたちが神の慈愛を持っているという最も大きな証拠の一つは、主が、明日の出来事を隠しておられるということである。わたしたちが明日を知らないということが、わたしたちを今日もっと用心深い者にし、また熱心な者とする。わたしたちは自分の前に何があるかを知らない。わたしたちが最善を尽して作った計画も、時に愚かで欠陥があるように思える。わたしたちは、「将来を知ることさえできたなら」と考える。しかし、神はご自分の子らがご自分を信頼し、神が導かれる所に行く用意をしていることを望んでおられる。わたしたちは主が天の雲に乗って、現われる正確な時を知らない。しかし主は、わたしたちにただ一つの安全は、絶えず準備していること、すなわち目を覚まし待っていることであると告げておられる。わたしたちの前に、1年あるいは5年、10年あろうとも、今日わたしたちは委ねられたものに忠実であるべきである。わたしたちは日毎の義務をその日こそ、最期の日であるかのように忠実に果たすべきである。わたしたちが怠けて待っているなら、神のみ心を行なっているとはいえない。神はすべての者に働きをお与えになった。そして主は各自が忠実に自分の分をなすことを期待しておられる。…かつてなかったほど罪、すなわち暗黒の力に対して抵抗しなければならぬ。時は、現代の真理を信じる者達が精力的に決定的にその分を果たすことを要求している。彼らは真理を言葉と行いによって示さなければならない。救い主の再臨を長く待たねばならないように思えるならば、また悩みに打ちひしがれ、骨折りに疲れたならば、また終りの任務に耐えられないと感じ、戦いから放免されたいと思うならば、次のことを思い出しなさい。そして、次のことを覚えてすべてのつぶやきを抑制しなければならない。つまり、神はわたしたちを地上で嵐や争闘に遭遇し、クリスチャン品性を完成し、わたしたちの父なる神とわたしたちの兄であるキリストをもっとよく知り、そして、キリストに多くの魂を勝ち取ることによって、主のために働きをなすためにわたしたちを地上に残しておられるのである。そしてわたしたちば「よくやった、よい忠実な僕よ、あなたの主の喜びに入りなさい」(マタイ 25:23 参照)という言葉を、喜びをもって聞くことができる。(レビュー・アンド・ヘラルド 1881年10月26日)

最終の決定の日

「また、死んでいた者が、大いなる者も小さき者も共に、御座の前に立っているのが見えた。かずかずの書物が開かれたが、もう一つの書物が開かれた。これはいのちの書であった。死人はそのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがつて、さばかれた。」(黙示録 20:12)

聖書は、「神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れたことを善悪ともにさばかれるからである」と宣言している(伝道 12:14)。この事に関して、疑いの余地はない。…罪は父や母また妻や子供、そして友人には秘密にされ、否定され、覆い隠されるかもしれない。罪を犯した本人以外は誰もその悪事に対し、少しも疑いを心に抱かなくても、天の知的存在者たちの前にはあらわにされる。この上なく暗い夜の暗さも人を欺くあらゆる巧妙な秘密も、永遠なるお方の知識からその一つをも隠すことはできない。……

主は、アダムとエバが禁断の木の実を取った時、それをご覧になった。罪を犯して彼らは御前から逃げ「自分たちを隠した」。しかし、神は彼らを御覧になった。彼らは主の目から自分の恥をおおい隠すことができなかった。カインが弟を殺した時、彼は自分の行為を否認することによって自分の犯罪を隠そうとした。しかし、主は「あなたの弟の血の聲が土の中からわたしに叫んでいます」と言われた(創世記 4:10)。

悔い改めず告白していないすべての罪は、記録の書に残っている。それは消し去られることがない。イエスの贖いの血による取り消しが裁きに先立って行われることはない。個人個人の徐々に蓄積された罪は完全な正確さをもって記される。そして神の律法の刺し通す光はすべての暗黒の秘密を裁く。彼らに対して神が要求される光と機会と知識に比例して、神の恵みの拒絶者たちに有罪の宣告がなされる。

最終決定の日がわたしたちの前に迫っている。聖書は、生活と品性を形づくる完全な標準として神の律法を提示している。この戒めに対する従順の唯一で完全な模範は、神の御子、すなわち失われた人類の救い主の中に見られる。主には一点の不義もない。そしてわたしたちは主のみ足の跡に従うように命じられている。(ビュー・アンド・ヘラルド 1888年3月27日)

12月20日

恐れるな、神の子よ

「わたしは彼を見たとき、その足もとに倒れて死人のようになった。すると、彼は右手をわたしの上において言った、『恐れるな。わたしは初めてであり、終りであり、また、生きている者である。わたしは死んだことはあるが、見よ、世々限りなく生きている者である。そして、死と黄泉とのかぎを持っている。』」(黙示録 1:17, 18)

パトモス島に流されたヨハネは、「わたしはアルパであり、オメガである。初めてであり、終りである」という声を聞いた(黙示録 1:18 英訳)。その声を聞いた時、ヨハネは驚いて死人のように倒れた。彼は神の栄光の光景に耐えることができなかった。しかし、一つの手がヨハネを起こした。そして、彼が覚えていた主の声を聞いた。彼は強くされ、主イエスと話すことに耐えることができた。散らされている神の民、すなわちある者は山の磐に、ある者は追放され、ある者は追跡され、ある者は迫害を受ける。神の残りの民も同様である。神の声が聞こえ、栄光の輝きが現れる時、悩みの時が去り、不純物が取り去られる時、彼らは、自分たちが自らの血潮で贖って下さった方のみ前にいることを知る。ちょうど流刑のヨハネに対してキリストがなされたように、主は、信仰とイエス・キリストのあかしのために、迫害の手を感じている主の民に対して、同様になさる。……彼らは迫害の嵐がうずまく大嵐によって岩の裂け目に追いやられたが、千歳の岩に隠れていた。そして山の磐や他の洞穴や隠れ場においても、救い主はご自身の臨在と栄光をあらわされる。それはもうしばらくの間であって、主は必ず来られ、遅れることはない。主の目は、燃える炎のように、堅く閉ざされた地下牢の中をも見通し、隠れた者を捜し出される。彼らの名前が小羊の命の書に書かれているからである。救い主の目は、わたしたちの上にあり、わたしたちのまわりであって、すべての困難に注意を払い、あらゆる危険を見分けられる。主の目が届かない所はない。キリストの同情が届かない主の民の悲しみや苦しみはない。

神の子はイエス・キリストの至高の主権者としてのみ姿を初めて見るとき、恐れおののくであろう。彼は、主の聖なる御前に生きることはできないと思う。しかし、ヨハネに「恐れるな」という言葉が与えられたように彼にも言葉が与えられる。イエスはご自分の右手をヨハネにおかれた。主は彼の地上に倒れた体を起こされた。主はご自分の忠実な、またご自分を信頼する者に対してもそのようになさるのである。(原稿 56, 1886 年)

主の完全さを着る

「そこで、子たちよ。キリストのうちにとどまっていなさい。それは、彼が現れる時に、確信を持ち、その来臨に際して、みまえに恥じることがないためである。」
(ヨハネ第一 2:28)

イエスは罪のうちにではなく、罪から罪人を救い、そして真理を通して彼らを清めるためにこの世界に来られた。主がわたしたちにとって完全な救い主となれるために、わたしたちは信仰の個人的な行為によって、主との一致に入らなければならない。キリストは、わたしたちを選び、わたしたちは主を選んだ。この選びによってわたしたちは主と結合する。そしてこれからは、自分のために生きるのではなく、わたしたちのために死なれた主のために生きるようになる。この結合は、絶え間ない注意によってのみ維持できる。さもなければ、誘惑に陥り、誤った選択をする。なぜなら、わたしたちは自分が望めばいつでも別の主人を選択することができるからである。キリストとの結合はすべての行為と思いにおいて主を必ず選ぶことを意味する。…わたしたちは自分をキリストの家族の一員であると考えべきである。そしてわたしたちは愛されている子供として主に従うべきである。神の家に養子になったならば、天父とわたしたちの親族をあがめないでおられようか。……わたしたちは自分の魂と敵の間に断固たる敵意を確立しなければならない。しかし、わたしたちは、聖霊の力と影響には、わたしたちの心を開かなければならない。わたしたちは、サタンの暗黒は閉め出し、天の光は流れ込むようにと望む。イエスのほんのかすかなさやきでもわたしたちの心を動かすほどに聖なる影響に敏感な者になりたい。…その時、わたしたちは神のみ旨を行なうことを喜び、キリストは天父と聖天使の前でわたしたちをご自分の内に宿る者として所有することがおできになる。しかし、わたしたちは、自分の聖なることを誇らない。わたしたちがキリストのしみのない無限の純潔をもっとはっきりと見るとき、ダニエルが、主の栄光を見て「わが顔の輝きは恐ろしく変わった」と言ったようにわたしたちも感じるであろう(ダニエル 10:8)。わたしたちはこのみじめな体に変化し、主の輝かしいからだに造られるまで、わたしには罪がない」と言うことはできない。しかし、イエスに従おうと絶えず望むならば、しみもしわも、そのたぐいのものがいっさいなくキリストにあって完全となり、主の義と完全を着て神の御座の前に立つという祝福された望みはわたしたちのものになる。(サイン・オブ・ザ・クロス 1888年3月23日)

12月22日

永遠の門口

「この朽ちるものが朽ちないものを着、この死ぬものが死なないものを着るとき、聖書に書いてある言葉が成就するのである。『死は勝利にのまれてしまった。』」(コリント第一 15:54, 55 上句)

この世界で愛する者を失っていく人々にとって、将来の不死の命を彼らの前に明らかにする神の約束を信じる信仰と希望は、なんと尊いものであろう。彼らの望みは、世界の目には見えていない将来の現実を確信する。キリストは初穂として死からよみがえられた。希望と信仰は、復活の朝、不死の命を着て出てくるといふ完全な信仰によって墓の暗い影を通るために魂を力づける。神のパラダイス、そこは祝福された者の家郷である。そこでは、すべての顔から涙が全く拭い取られるのである。キリストが二度目に来られる時「信じる者たちの間で驚嘆されるであろう」(テサロニケ第二 1:10)。死は勝利にのまれ、もはや病氣も悲しみも死もない。豊かな約束がわたしたちに与えられている。「命の木にあずかる特権を与えられ、また門を通して都に入るために、神の戒めを守る者たちは、幸いである」(黙示録 22:14 英訳)。神を愛する者たちにとってこの約束は豊かで、慰めに満ちたものではないであろうか。(レビュー・アンド・ヘラルド 1887 年 10 月 11 日) イエスの復活は、主にあつて眠っているすべての者の最後の復活の実例であった。救い主の復活されたお体、主のふるまい、主の話し方は主に従う者にとってはすべて見慣れたものであった。イエスにあつて眠る者もそれに似た方法で再びよみがえる。わたしたちは弟子たちがイエスを知っていたように友を知る。この人の世では不具になり、病を負い、醜くかったかもしれないが、復活し、栄化されたからだにおいても彼らの各個人の独自性は正確に保たれる。イエスのみ顔から出る光によって揮っている顔の中に、わたしたちが愛する人の顔だちを認めるであろう。(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1092) 命の賦与者は、第一の復活において、ご自身が買い取られた所有物を集められる。そして、最後のラッパが響くその勝利の時まで、膨大な大軍が永遠の勝利へと現われるまで、すべての眠っている聖徒は安全に保たれ、神は一人一人の名前を覚えて大切な宝石のように守られる。(同上 4 巻 1143)

あなたのための永遠の場所

「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意して行くのだから。そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。」(ヨハネ 14:1-3)

キリストが墓に横たわっておられた時、主の弟子たちはこれらの言葉を思い出した。彼らはこの言葉を何度も思い返しては泣いた。充分理解できなかったからである。信仰も希望も悲嘆にくれた弟子たちを慰めることがなかった。彼らはただ「またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう」というみ言葉を繰り返すことができるだけであった。… 聖なる律法に自分を従順に従わせるすべての者のために天の住居が用意される。人類家族がサタンの誘惑による言い訳をしないようにキリストは人間と一つになられた。神と一つであられた唯一のお方が人間として律法に生き、普通の労働者の慎ましい生活にまで下りてこられ、主のこの世の両親と共に、大工の仕事場で骨折りの仕事をされた。主の子供であると主張するすべての者に主が求められる生活を主は送られた。そして神は、ご自身ではなさろうとしない自己否定と服従を人間に要求されたというサタンの強力な議論を断ち切られた。… イエスは、ご自分のみ足の跡に従う以上のことを人間にお求めにならない。主は天の主権者、栄光の王であられたが、わたしたちのために貧しくなられた。それは主の欠乏によって、わたしたちが富む者となるためであった。わたしたちに対する主の最後の言葉ともいべきものは「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい」という言葉である。悲しみや心を騒がす代りに喜ぶべきである。わたしはあなたのために、この世に来た。今やここにおけるわたしの時は成就する。今からわたしは天に行く。あなたのためにわたしは、この世で熱心に働いた。将来においてはあなたのために更に重要な仕事においてもっと熱心に働くのである。わたしはあなたを救うためにこの世に来たのだ。わたしはわたしの父のみ国にあなたのための永遠の住まいを備えにいく。(手紙 121, 1897 年) これらの言葉はわたしたちにとってなんという慰めであろう。キリストがいま天でしておられる働き、すなわちご自分の子供たちのために住まいを準備しておられることを考えなさい。主は、わたしたちがこの住居に住む準備をするように望んでおられる。(原稿 28, 1901 年)

12月24日

み顔を仰ぎ見る

「御顔を仰ぎ見るのである。彼らの額には、御名がしるされている。」(黙示録 22:4)

わたしたちは今、神の栄光を見ることはできない。しかし、ここで主を受け入れることによってのみ、だんだんと、主と顔と顔を合わせて見るようになるのである。神はわたしたちが目をご自分に向け続けることを望んでおられる。そうすれば、わたしたちは、この世のことを見なくなるからである。わたしたちには誰ひとりとして神のみ顔を仰ぐことができるように準備することを遅らせるような時間はないのである。……神の小羊であるイエスを仰ぎ、主のみ足の跡に従うことによってのみ、あなたは神に会う備えをすることができる。主に従いなさい。そうすれば、いつの日かあなたは神の都の黄金の道を歩むであろう。あなたは王の服と冠をわきへ置いて、ご自身を人性でおおわれ、この世に来て罪を負われた主を見るであろう。これはわたしたちを高め、ご自分の栄光と主権者の権威の啓示をわたしたちに与えるためであった。もし、わたしたちが主によって型どられ、形成され、神のみ国にふさわしい者として用意するために自分を任せるならば、顔と顔を合わせて主を仰ぎ見るであろう。神の奉仕に自分の生涯をささげる者は永遠にわたって神と共に生きるであろう。「神自ら人と共にいまして、彼らの神となられる」(黙示録 21:3 英文訳)のである。……彼らは心をこの世で神にささげた。彼らは、心と知性をもって神に仕えた。それで今、神はご自分の名を彼らの額に押すことがおできになる。そして「夜は、もはやない。…主なる神が彼らを照らし、そして、彼らは世々限りなく支配する」(黙示録 22:5)。彼らは、その場所に居場所を乞うて入るのではない。なぜならば、キリストは「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めから、あなたがたのために用意されているみ国を受け継ぎなさい」と彼らに言われるからである(マタイ 25:34)。主は彼らをお子として受け入れられて「あなたの主人の喜びに入りなさい」と言われる。不死の冠が勝利者の額に被せられる。彼らは自分の冠を取り、イエスの足元に投げ出す。そして彼らの金の立琴をとって、小羊を賛美する歌の豊かな音楽で全天を満たす。その時「彼らは御顔を仰ぎ見るのである。彼らの額には、御名がしるされている」。(ユース・インストラクター 1896 年 8 月 20 日)

さらに表されるべき奥義

「更にまた、万物の造り主である神の中に世々隠されていた奥義にあずかる務がどんなものであるかを、明らかに示すためである。」(エペソ 3:9)

多くの人がパウロがここで述べている奥義を定義しようと努めた。しかし、それは多くのことを含んでおり、そして、わたしたちの神の愛と善またあわれみに関する観念は、いかにも限られている。霊的な事柄に関するわたしたちの知識は非常に委縮し、弱くなってしまうので、わたしたちは光からより大きな光へと前進してこなかった。主はわたしたちの理解力を開いて多くの尊い事柄をお示しになることができなかった。わたしたちがこの世のことと、世俗のことを続けたことによって損失したものを考えて、謙遜にならなければならない。…… エデンで約束が与えられて以来、神はご自分の預言者を通して神の奥義を示して来られた。しかし、多くの奥義がまだあらわされないままになっている。人が真理だと認めていることすらが、またどれ程神秘であり、説明できていないことであろうか。神のみ摂理は、いかに理解されていないことであろうか。神の道徳的支配を信じる絶対的な信仰と信頼がどれほど必要なことか。「そのさばきは窮めがたく、その道は測りがたい」(ローマ 11:33)。

わたしは今、神の奥義を理解するために、十分な霊的標準に達していない。しかし、わたしたちが天の家族の一員となるとき、これらの奥義は明らかにされる。……

わたしたちが、永遠の奥義について知らされてきたことを取り入れもせず感謝もしないために、神が今は沈黙しておられる多くの事柄の説明がその時に明らかにされるであろう。摂理の方法がはっきりとし、キリストによる恵みの奥義が明らかにされる。人の心が今は掴むことのできず、理解するのが困難な事柄が説明される。わたしたちは解釈できないと思われた事柄に秩序を見出し、差し止められていたすべての事柄に知恵を見出し、分け与えられたすべての事柄に徳と恵みあふれるあわれみを見るであろう。真理は人の心に明らかにされ、曖昧でなくなり、一貫して調和し、その輝きは継続する。心は喜びの歌を歌う。大争闘は永久に終わり、そしてすべての困難が解決される。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1897 年 3 月 25 日)

12月26日

神の愛の勝利

「主は王となられた。地は楽しみ、海に沿った多くの国々は喜べ。雲と暗やみとはそのまわりにあり、義と正とはそのみくらの基である。」(詩篇 97:1, 2)

愛の律法は神の統治の土台である。天に受け入れられる唯一の奉仕は愛の奉仕である。神は、すべての人に意志の自由を許され、主のご品性を正しく知る能力とそれによって主を愛し、主の奉仕を選ぶ能力を人間に与えられた。被造物である者が神を礼拝する限り、彼らは全宇宙において調和を保っていた。神への愛が至上である間は、他に対する愛も豊かであった。神のご品性の写しである律法に対する罪がなかった時には、不協和音が天上の調和を破ることがなかった。しかし、主の働きは、すべて神がご存知であり、永遠の昔から恵みの契約すなわち功なくして得た恩恵は神のみ心に存在していた。それは永遠の契約と呼ばれている。なぜなら救いの計画は人間の墮落の後に考え出されたのではなく、「長き世々にわたって、隠されていたが、今やあらわされ…もろもろの国人に告げ知らされた」ものであったからである(ローマ 16:25, 26) 天で統治しておられる神の前には過去と未来の奥義は同じ様に広がっている。神は、罪がもたらした悲しみと暗黒と破壊のむこうにご自分の目的である愛と祝福の完成をご覧になる。雲と暗黒は主のまわりを取り囲んでいても、義と正義とは主のみ座の土台である。…… 救いの計画を通して、人間の救いと地の贖い以上のより大きな目的が、成就されるのである。キリストにおいて神のご品性があらわれることによって、聖なる統治の恩恵が、全宇宙に表わされ、サタンの非難の不当が明らかにされ、罪の性質と結果が明らかになり、律法の永遠性が完全に証明される。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1893 年 2 月 13 日)

そのとき、罪の根絶は、神のみこころを行うことをよころび、心に律法をしるされている人々の宇宙の前で、神の愛を立証し、神の栄を確立するのである。(各時代の希望下巻 292)

神のご目的の成就

「それは今、天上にあるもろもろの支配や権威が、教会をとおして、神の多種多様な知恵を知るに至るためであって、わたしたちの主キリスト・イエスにあって実現された神の永遠の目的にそうものである。」(エペソ 3:10, 11)

キリストが地上に来られたのは、人間の贖いを成就するためばかりではなかったことをわたしたちは考えるべきである。神の律法が本来受けるべき尊敬を、この小さな世界の住民が神の律法を認めるだけでなく、神の律法が不変であり、罪の支払う報酬は死であるということを、全世界に実証するためであった。この主題には、わたしたちが理解しているよりも大きなことがある。すべての者が聖書を注意深く勉強することの大切さを知ることができたら！多くの人は、この世界と、天の住まいとが、神の宇宙を構成しているという考えを持っているようであるが、そうではない。贖われた群は、世界から世界へと及ぶのである。そして、彼らの時間の多くは、贖いの奥義の研究に当てられる。そして、永遠の広がりを通して、この主題は絶えず彼らの心に明らかにされていく。小羊の血によって勝利する者の特権と彼らのあかしの言葉は、理解を越えたものである。わたしたちは、一人一人、墮落した敵と戦わねばならない。…自己に勝利を得ることにより直ちに戦いを始めなさい。悪魔に場所を与えてはならない。……あなたの影響力をキリストの側におきなさい。カルバリーの十字架を見ると、あなたは神の愛と神の救おうとする心を疑うことはできない。主は、主に天の誉れを与える諸世界につぐ諸世界を持っておられる。そして、天と全宇宙には、主がこの世界を滅びるまま放っておかれたとしても、なお、喜びはあったかもしれないが、しかし、この墮落した人類に対する神の愛は非常に大きいものであったので、神は彼らが永遠の死から救われるために、ご自身の愛される御子を与えられたのであった。わたしたちは神がわたしたちを大切に、愛しておられるのを見ると、それに応えよう。主の戦いを雄々しく戦って、わたしたちの存在がもつ力をすべてイエスに与えよう。わたしたちは自分の魂を失うことはできない。わたしたちは神に対抗して罪を犯すことはできない。命、栄光の王国における永遠の命は、あらゆるものよりも価値がある。(ビュー・アソッド・ヘラルド 1886年3月6日)

12月28日

彼の前に置かれている喜び

「彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないで十字架を
忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。」(ヘブル 12:2)

地上におけるキリストの働きは失われた者を捜し、救うことであつた。血のバプテスマが最初に受け入れられねばならず、世の罪の重みが主の純潔な魂の上に積み上げられなければならない、言い表わせない苦悩の影がいつも主をおおってはいたが、主は目の前に常にご自分の使命の結果を御覧になった。ご自分の前に置かれている喜びのゆえに主は十字架を忍び、辱めに耐えられた。主はすべての罪人が救われ、高められ、高貴にされて主のみ座の前に主と共にいることができるようにこれらのすべてに耐えられた。キリストは天の真理の創始者である。主は死ぬべき人間でははかり知ることのできない神の愛の思いの高さと深さ、また長さや広さ、そして完全を知っておられた。主は、罪人が天の光を拒絶する時、彼らは祝福を拒んでいるのであって、天の真理を拒む魂の上には恐怖がおとずれるのを知っておられた。……キリストのみが神に反逆する者が、受け入れるのを拒む栄光の非常な重みが何を意味するかを知っておられた。……人は罪で汚されているので、彼らが心に抱いている悪の憎むべき性質を十分に認めることができない。罪のゆえに天の主権者であられる方が打たれ、神にたたかれ、苦しめられた。わたしたちが滅びないで、永遠の命を得るために、わたしたちの聖なる身代わりであられる方は自ら進んで、ご自分の魂を正義の剣の前に出された。キリストは「命を捨てるのは、それを再び得るためである。だれかが、わたしからそれを取り去るのではない。わたしが、自分からそれを捨てるのである」(ヨハネ 10:17, 18)と言われた。……地上の誰も、また天のみ使も罪の刑罰を払うことはできなかった。イエスは反逆した人間を救うことのできる唯一のお方であつた。(ビュー・アノド・ハルト 1892年12月20日) イエスの前におかれた喜びは、ご自分の栄光と誉れ、また富とご自身の命を犠牲にすることにより、贖われた魂をご覧になることであつた。人間の救いが主の喜びであつた。贖われた者がすべて神のみ国に集められる時、主は、ご自分の魂の労苦の結果を見て満足される。(教会への証 2巻 686)

キリストの労苦の結果

「彼は自分の魂の苦しみにより光を見て満足する。義なるわがしもべはその知識によって、多くの人を義とし、また彼らの不義を負う。」(イザヤ 53:11)

骨折りと犠牲のご生涯の間、神の御子を支えたものは何であつたか。キリストはご自分の魂の労苦の結果をご覧になって満足された。キリストは永遠をご覧になり、ご自身の屈辱を通してゆるしと永遠のいのちを受けた人々の幸福をご覧になった。キリストの耳はあがなわれた者たちの歓喜の叫びを聞き取られた。主はあがなわれた人々がモーセと小羊の歌をうたっているのをお聞きになった。(患難から栄光へ下巻 310)「神はそのひとり子を賜ったほどにこの世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」。この世でのキリストの生活の一瞬一瞬に、神はご自分の賜物を繰り返してお与えになった。罪のない方であるキリストは罪人のために無限の犠牲を払っておられた。それは罪人が救われる為であつた。主は悲しみの人で、病いを知っている人として来られた。そして主が救う為に来られた者たちは、「彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだ」と思った。主があたかも罪人であるかのように苦しみの杯が主の手におかれた。そして、主はそれを一滴も残さず飲み尽された。主は最後まで世の罪を負われた。…だれもカルバリーの十字架で表わされた愛の深さを理解することも、測ることもできない。…忍ばれた苦しみの激しい痛み一つ一つに、わたしたちは父の愛の苦闘を見る。父ご自身が罪に滅びつつある世のために、ご自身の全能の愛の偉大さのうちに苦しい働きをなされた。払われた犠牲によって永遠の命という賜物はアダムの子供のすべてのむすこ、娘の手が届くところにおかれた。(手紙 100, 1911 年) キリストに贖われた者は主の宝石であり、主の尊い、特別な宝である。「彼らは冠の玉のよう」であり、「聖徒たちが継ぐべき、栄光の富」である(ゼカリヤ 9:16, エペソ 1:18)。彼らを見て「彼は自分の魂の苦しみにより光を見て満足する。」キリストはご自分の民が純潔で完全であることを御覧になる。それはキリストの苦しみ、謙遜、そして愛とその栄光の補足の報いであって、キリストが偉大なる中心であり、すべての栄光が輝き出ている方なのである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1908 年 10 月 22 日)

12月30日

わたしたちの前にある永遠

「彼らは力から力に進み、シオンにおいて神々の神にまみえるでしょう。」(詩篇 84:7)

全天は強い関心を持って、神の戒めを守る民であると主張する人々を見つめている。ここに、神の豊かなみ約束をすべて要求できるようになっていなければならない人々、栄光から栄光へと、力から力へと進んで行くべき人々、彼らのなす働きの中で神の栄光を反映する立場にあるべき人々がいる。……

わたしたちは神の豊かな祝福を受けてきた。しかし、わたしたちはここで止まってはならない。わたしたちは天からの光の聖なる光線をもっともっととらえるべきである。わたしたちは光を受けて、その栄光の中で、他の人の道にその光を反映できるところにだけ立つべきである。……

わたしたちは命の泉をもっともっと深く、飲む必要がある。……あなたは「主がわたしの魂のためになされたことを聞け」という生きたあかしを伝えることができる。主はもっと大きな祝福を与えようとしておられる。主はご自分の恵みがすべてモーセの前を通ることを許された。主はご自身の品性を、あわれみに満ちた神として、すなわち怒ることおそく、恵みあり、悪ととがと罪をゆるす神として宣言された。モーセはイスラエルの民にこのご品性を示すのであった。そして、わたしたちも同じ様にするべきである。わたしたちは人々の前に、神の恵み深いことを知らせ、主の本当のご品性を人々に告げるために出て行くべきである。わたしたちは主の栄光を反映すべきである。…モーセが霊と生活両方においてイスラエルに示したように、人々に神のご品性を明言すべきである。わたしたちは同情と愛にあふれた主のみ顔の光をとらえ、それを、滅びつつある魂に反映しなければならない。わたしは、あなたがたに、神を追い求め、生ける水の泉から飲みつづけるように懇願する。あなたがたは、水のほとりに植えられて、決して葉が枯れることのない木のようになるであろう。あなたがたは充分な水分を貯えて他を生き返らせ、彼らに恵みと慰めを与えることができるようになるであろう。わたしは今、イエスを愛している。わたしは、さらに、さらに主を知りたいと願っている。わたしは主を知り始めたばかりである。しかし、わたしたちの前には、永遠という時があり、その長きにわたって主の栄光は現われようとしている。そしてわたしたちは、わたしたちの天の主をますます知るようになるのである。(ビュー・アソド・ヘラット 1889年2月26日)

ついに、ふるさとに

「父よ、あなたがわたしに賜った人々が、わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい。」(ヨハネ 17:24 上旬)

神の愛は測ることも、比較することもできない。それは無限である。……わたしたちがキリストの尊厳と栄光を瞑想するとき、わたしたちは失われた世界を贖うためにカルバリーの十字架の上であのような犠牲を払わせた愛がどれほど偉大のものであったかを知る。この主題は永遠にわたって聖徒を感嘆と驚きで満たすであろう。それなのに、なぜ、わたしたちはこの世界でそれを瞑想しないのであろうか。…… 神が肉において現れた。なんとという信心の奥義であらう。わたしたちが理解しようとすればするほどこの奥義は増大する。それは理解を越えている。死ぬべき人間がイエスとその比類のない愛を理解することは不可能である。……わたしたちは、どうしてこの世のささいなことにひたれるだろうか。この光景、すなわち神のひとり子の死に表されている愛であるカルバリーの十字架に心を打たれずにおられようか。…… この謙遜と苦悩は、さまよい、罪を犯し、感謝しないすべての者をみ父の家に連れかえるために忍ばれたものである。祝福された者のふるさとーわたしは、それを絶対に失うことはできない。神のみ国に救われたなら、わたしは、救いの計画の新しい深さを絶えず理解するようになるであらう。贖われた聖徒は、皆天父と御子の愛を今までにないほど知り、感謝して、不死の唇から、賛美の歌がほとばしり出るであらう。主はわたしたちを愛し、わたしたちのためにご自分の命を与えて下さった。栄化された体と、増大した能力、また清くされた心と清められた唇をもって、贖われた愛の豊かさを賛美する。天では苦しむ者はなく、永遠の事柄の現実を確信させるためにわたしたちが苦勞しなければならぬ懷疑論者もない。根絶しなければならない偏見もない。すべての者は理解を越えた愛に対して感じやすい者となる。神に感謝することには、安息、神の民のための安息がある。そこでは、イエスが贖われた者を緑の牧場に導かれ、神の都に喜びをもたらす生ける水の流れのほとりで神の民は休む。その時、天父に対するイエスの「あなたがわたしに賜った人々が、わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい」という祈りは答えられるのである。(手紙 27, 1890 年)

研究 5

神の栄光ともう一つの声



わたしの喜ぶところの断食

旧約にも主の栄光がどのように現れるかが預言されていました。イザヤ 58 章 8 節には、「そうすれば、あなたの光が暁のようにあらわれ出て、あなたは、すみやかにいやされ、あなたの義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたのしんがりとなる」とあります。「そうすれば」つまり、主の栄光の現れは何かの結果であることがわかります。では、どうすれば主の栄光が現れるのでしょうか。その前の聖句を読みますと、「わたしが選ぶところの断食」が説明されています。「わたしが選ぶところの断食」の結果が、主の栄光だということです。では、主が選ばれる断食とは何でしょうか。

断食 = 直接、主の言葉によって生きること

「もろもろの天は主のみことばによって造られ」（詩篇 33:6）。

「神はまた言われた、『地は青草と、種をもつ草と、種類にしたがって種のある実を結ぶ果樹とを地の上にはえさせよ』。そのようになった。地は青草と、種類にしたがって種をもつ草と、種類にしたがって種のある実を結ぶ木とをはえさせた。神は見て、良しとされた。」「神はまた言われた、…これはあなたがたの食物となるであろう。』（創世記 1:11,12, 29）。

わたしたちが食べて生きるようにと与えられた食物は、神様のみ言葉によって創造されました。そして、人が食べて生きる真の意味を理解させるために、主は次のように人々を教育なさいました。

「それで主はあなたを苦しめ、あなたを飢えさせ、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナをもって、あなたを養われた。人はパンだけでは生きず、人は主の口から出るすべてのことばによって生きることをあなたに知らせる

ためであった」(申命記 8:3)。(マタイ 4:4 参照)。

キリストは自ら試みの荒野で、主の口から出るすべての言葉によって生きることが証明されました。そして後に、ご自分についてきた弟子たち一人ひとりにこの真理を明示して、次のように言われました。

「わたしがあなたがたに話した言葉は…命である」(ヨハネ 6:63)。(ヨハネ 6:55, 57 参照)。

キリストが来られる前から、エレミヤも次のように証しています、「わたしはみ言葉を与えられて、それを食べました」(エレミヤ 15:16)。

パンを食べる胃は休息を得ることができますが、神の言葉によって生きる心はそうはいきません！

後の世のための幻を示され、まったく力を失ったダニエルも次のように証しました。「彼がこう言ったとき(彼が語られたとき)、わたしは力づいて」(ダニエル 10:19)。

こうして見るとき、人を生かすものは神の言葉であることがわかります。食物を食べて生きるのは、食物を生じさせたみ言葉を食べているからです。つまり、間接的にみ言葉を食べているからなのです。

本物の断食とその結果

「わたしが選ぶところの断食は、…」(イザヤ 58:6)。

神の与えてくださる食物をとることが、間接的にそのみ言葉を食することであるとすれば、このお方の選ぶところの断食は、何を意味するでしょうか。

例えば、言葉によって創造された穀物を食することによって命を得ることを次のように表しますと、

言葉→穀物(パン)→命

断食とは、ここから穀物(パン)を断つことを意味します。つまり、

言葉→命

直接、神のみ言葉を食することです。

ただ、神のみに頼り、そのみ言葉によって生きることです。

そのように「わたしが選ぶところの断食」によって生きるとき、次の結果が伴うことを約束されました。

「そうすれば、あなたの光が暁のようにあらわれ出て、あなたは、すみやかにいやされ（あなたの健康はすみやかに生じ）、あなたの義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたのしんがりとなる。また、あなたが呼ぶとき、主は答えられ、あなたが叫ぶとき、『わたしはここにおる』と言われる。…あなたの子らは久しく荒れすたれたる所を興し、あなたは代々やぶれた基を立て、人はあなたを『破れを繕う者』と呼び、『市街を繕って住むべき所となす者』と呼ぶようになる。」（イザヤ 58:8, 9, 12）。

これが、主の言葉によって直接生きるようになるときに約束された結果です。

「暁のように」については、ホセア 6:3 に「主はあしたの光のように必ず現れいで」とある通りです。そして「あなたの健康」が生じることについては、健康のメッセージが第三天使の右腕として働くことに表れています。「あなたの義」については、イザヤ 54:17 に「わたしから受ける義である」と言われます。あなたの義は、主から受ける義なのです。「主の栄光」、黙示録 18:1 で「地は彼の栄光によって明るくされた」とあります。

「あなたが呼ぶとき、主は答えられ、あなたが叫ぶとき、『わたしはここにおる』と言われる」、マラキ 4:5,6 では、終わりの時に父と子の関係が回復することが預言されています。イサクが父アブラハムに「父よ」と呼びかけたとき、アブラハムは「子よ、わたしはここにいます」と答えました。そして、その子に「神みずから燔祭の小羊を備えてくださる」ことを伝えたのでした。

「破れを繕う者」、「市街を繕って住むべき所となす者」と呼ばれる人々については、次のようにあります。「だれが、彼らのことを破れを繕う者、市街を繕って住むべき所となす者と呼ぶのであろうか。それは神である。彼らの名前は天で代々破れた基を立てる者として、改革者、再建者として登録される」（SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト] 4 巻 1151）

たしかに、この一つ一つの預言が、今がその成就の時であることを示しています。

そして終わりの時代になすべき断食については、次のように記されています。

「すべての人に勧められるべき真の断食は、すべての刺激的な種類の食物を断ち、健康に良い単純な食物、すなわち神が豊かに備えて下さったものを適切に用いることである。人はこの世の食物について何を食べるかまた何を飲むかについて考えるよりも、天からの食物に関して、すなわち健全な宗教経験に健全さ

と活力を与える食物に関して、はるかにもっと多く考える必要がある」(医事伝道 283)。

「真の断食と祈りの精神とは、思いと心と意志を神へ明け渡す精神である」
(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 4 巻 1149)

これについて、後でさらに詳しく見ていきます。

起きよ、光を放て。あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上に

「起きよ、光を放て。あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上にのぼったから。見よ、暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう。しかし、あなたの上には主が朝日のごとくのぼられ、主の栄光があなたの上にあられる。もろもろの国は、あなたの光に来、もろもろの王は、のぼるあなたの輝きに来る」(イザヤ 60:1-3)。

「起きよ、光を放て」については、終わりの時の準備が何かをご自分の弟子たちに教えて下さったイエスの譬と比べることができます。「さあ、花婿だ、迎えに出なさい」、「そのとき、おとめたちはみな起きて、それぞれあかりを整えた」(マタイ 25:7, 6)。起きて、それぞれのあかりを整えたのは、花婿が来られたからでした。すなわち、「あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上にのぼったから」。「主が…のぼられ、主の栄光があなたの上にあられる」とある主の栄光と黙示録 18:1 の預言にある彼の栄光を比較して考えてみましょう。「わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた」。つまり、あなたの上に臨んだ主の栄光が全地を照らすとき、「もろもろの国は、あなたの光に来、もろもろの王は、のぼるあなたの輝きに来る」。そして、この光景をパトモス島のヨハネも見ました、「諸国民(救われた諸国民)は都の光の中を歩き」(黙示録 21:24)、「わたしたちを、その父なる神のために、御国の民とし、祭司として下さ」り(黙示録 1:6)、「地の王たちは、自分たちの光栄をそこに携えて来る」(黙示録 21:24)。

「キリストは弟子たちに光を輝かすように努力せよと、お命じにならなかった。ただあなたがたの光を輝かしなさい(光が輝くままにしましなさい)と言われただけであつた」(キリストの実物教訓 396)。

「そのように、キリストの弟子たちは、世界の暗黒に光を輝かさなければならぬ。神のことは、聖霊の働きによってそれを受け入れる人の心を変える光に

なる。人びとの心に、みことばの原則を植えつけることによって、聖霊は、彼らの心の中に神の性質をめばえさせる。神の栄光の光、すなわち、神の品性が、神に従う者のなかに輝き出なければならない。こうして、彼らは、神に栄えを帰し、花婿の家、すなわち神の都と小羊の婚宴への道を照らすのである」(キリストの実物教訓 390)

この光が全世界を照らすために、主の喜ばれる断食によって準備が必要です！

は信じられませんでした。

それから王は恥ずべきほどに神のみ子を虐待し、あざけり始めました。「またヘロデはその兵卒どもと一緒にあって、イエスを侮辱したり嘲弄したりしたあげく、はなやかな着物を着せ…た」(ルカ 23:11)。

邪悪な王はイエスさまがこれらすべての侮辱を沈黙のうちに受け入れておられるのを見ました。彼は自分の前にいるお方はただの人間ではないという突然の恐れに動かされました。彼はこの囚人が地に下ってこられた天来の存在かもしれないという考えに当惑しました。

ヘロデはあえてイエスさまの有罪宣告を裁可(さいか)しようとはしませんでした。彼はこの恐るべき責任からまぬがれたいと望んで、救い主をピラトへと送り返しました。

ドセ・ジ・バナナ

(バナナのお菓子：ブラジルのお菓子)

■材料

バナナ お好み量

■作り方

1. バナナの皮をむき、フードプロセッサーにかけます。
2. それを鍋に入れて、弱火にかけ、バナナを焦げないように混ぜ続けます。
3. 火が通ってきたら、とろ火にして、そのまま混ぜ続けます。
4. 1時間も続けると、水分がとんで量が少なくなって、赤黒くあめ色になり、もっちりした感触になります。
5. 冷蔵庫で冷やして、食べます。

バナナとは思えない濃いあずきのようなあめ色と砂糖を全く使用していないとは思えない甘さが特徴で、冷蔵庫保存で2か月くらい日持ちのするお菓子になります。

バナナだけで作る健康的なお菓子、ご家族で談話しながら順番にかきまぜるなど、家族団らんのひと時を兼ねて作ってみてはいかがでしょうか。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

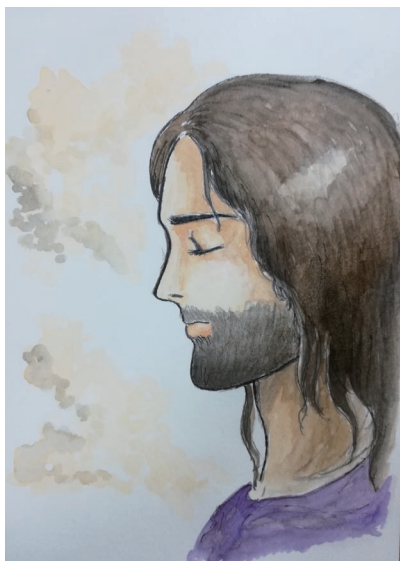
第45話

ヘロデの前で(II)

今彼はもっとかたくなになっていました。彼はイエスさまの沈黙に耐えられませんでした。彼の顔は激怒して赤くなり、救い主を怒っておどしましたが、このお方はなお動かされることなく沈黙しておられました。

キリストは心の傷ついた者をいやすためにこの世に來られました。罪に病んだ魂をいやすために何か言葉をかけることができるのであれば、黙ってはおられなかったことでしょう。しかし、このお方に真理をけがれた足で踏みつけることしかない者たちのために語る言葉はありませんでした。

救い主はこのかたくなな王の耳を刺し通すような言葉を語ることもおできになりました。このお方はヘロデの前に彼の人生の邪悪さをありのままに示し、また彼が近づきつつある運命の恐怖を示して、恐怖で震え上がらせることもおできになりました。しかし、キリストの沈黙は、このお方がお与えになることのできるもっとも厳しい譴責でした。



人類の苦悩に対していつも開かれていた耳は、ヘロデの命令を聞く余地はありませんでした。最も罪深い者の嘆願にさえも動かされたそのお心は、救い主の必要を感じない傲慢な王に対しては閉ざされていました。

怒りのうちに、ヘロデは群衆に向き直り、イエスさまを詐欺師だと訴えました。しかし、救い主の告発者たちはこのお方が詐欺師ではないことを知っていました。彼らはこのお方の力ある御業を数多く見てきたので、とてもこの告訴

(45 ページに続く)